

## 2002年11月の大気大循環と世界の天候

### 大気大循環

北半球500 hPa 高度では、前月とほぼ同様に、全般に高緯度で正偏差、中緯度で負偏差となる環状のパターンとなり、高緯度側の寒気が中緯度に南下しやすいパターンが卓越した。太平洋中部から北アメリカにかけては、前月と同様に、トラフとリッジが明瞭で東西に波列状の偏差が分布し、太平洋東部と北アメリカ東部で負偏差、カナダ西部で正偏差となった。また、大西洋のアゾレス諸島付近で正偏差となった。

対流活動は、ニューギニア付近から太平洋中部、メキシコ付近および南太平洋収束帯 (SPCZ) では平年より活発であった。日付変更線付近では8月以降活発な状態が続いている。またインド洋では広範囲で平年より活発であった。一方、7月以降不活発な状態が続いているインドネシア付近では、不活発域は縮小したものの、ジャワ島付近を中心に平年より不活発となった。

200 hPa 速度ポテンシャルの分布図では、太平洋西部の大規模な発散域は平年より南東寄りに位置した。インド洋では発散域は平年に比べて明瞭、南アメリカでは平年に見られる発散域が不明瞭であった。

SOI (南方振動指数) は-0.4となり、9か月続けて

負の値となった。

### 世界の天候

- ① 日本からモンゴルの低温
- ② マレーシア・インドネシアの高温
- ③ シベリア南部からロシア西部の多雨
- ④ ヨーロッパからグリーンランドの高温
- ⑤ ヨーロッパ西部の多雨

下旬にモロッコで大雨による洪水が発生し、60人以上が死亡したと伝えられた。

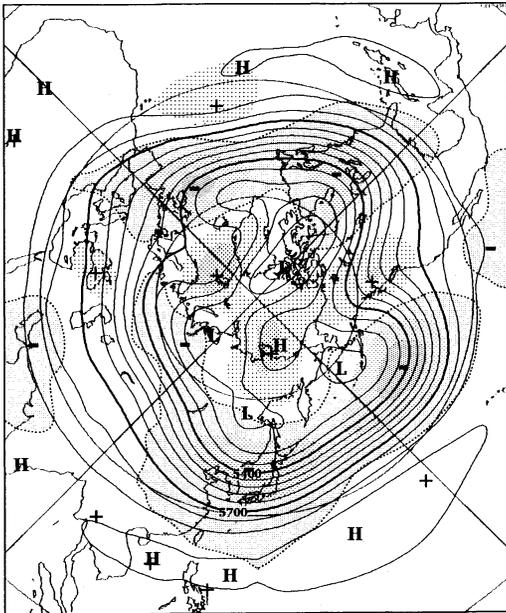
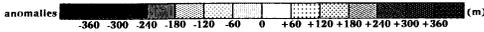
- ⑥ アラビア半島西部の高温
- ⑦ アラスカ付近の高温
- ⑧ 北米中部の少雨
- ⑨ カリブ海周辺の高温・少雨
- ⑩ アルゼンチン北東部の多雨

アルゼンチンでは10日頃に大雨による洪水の被害が報じられた。

- ⑪ オーストラリア東部の少雨

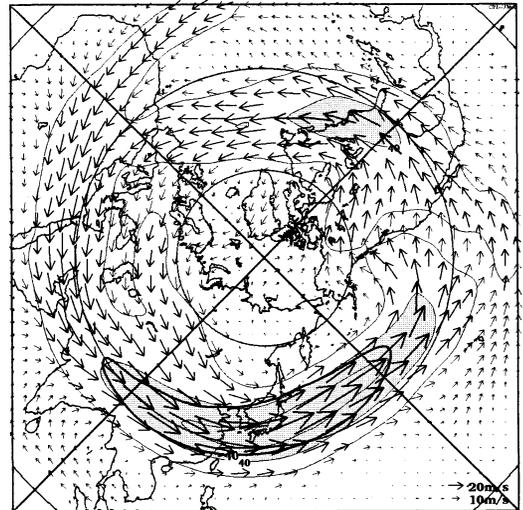
オーストラリアでは干ばつによる農業被害のほか、8月中旬からの山火事で英国の面積を上回る15万平方kmが焼失したと伝えられた。

(気象庁気候・海洋気象部気候情報課 村上喜章)



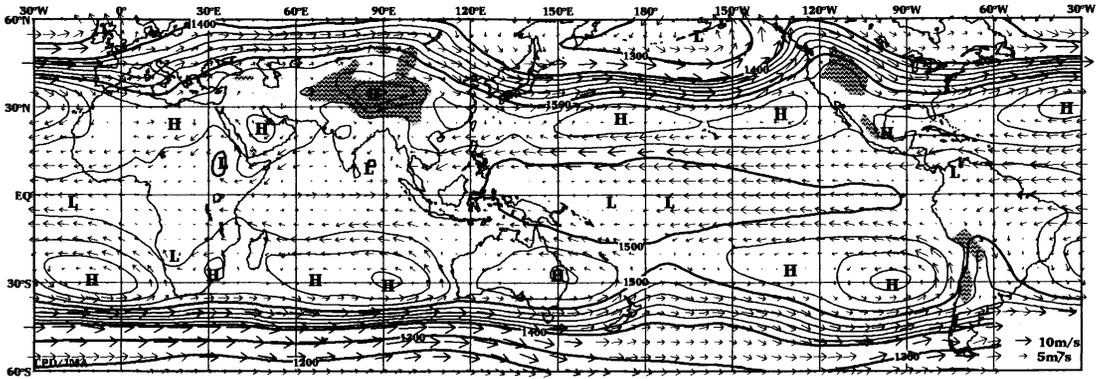
2002年11月の北半球月平均500 hPa 高度および年偏差

等値線間隔は60 m, 偏差パターン間隔は60 m. 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。

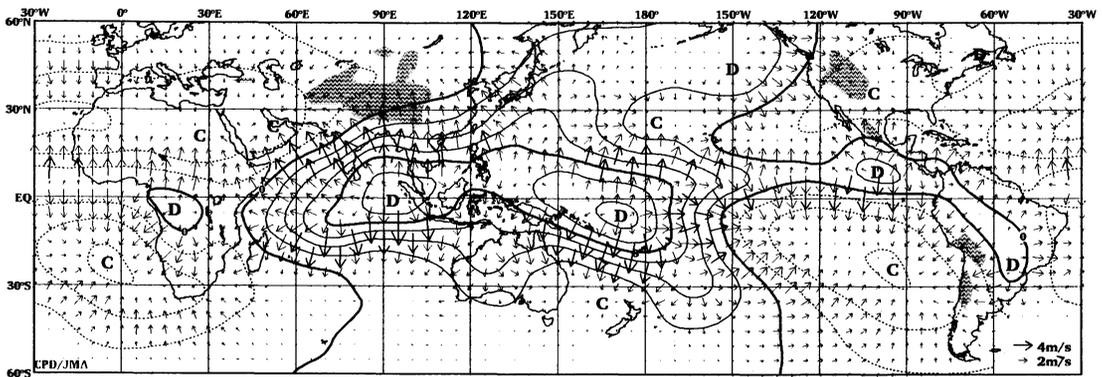


2002年11月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

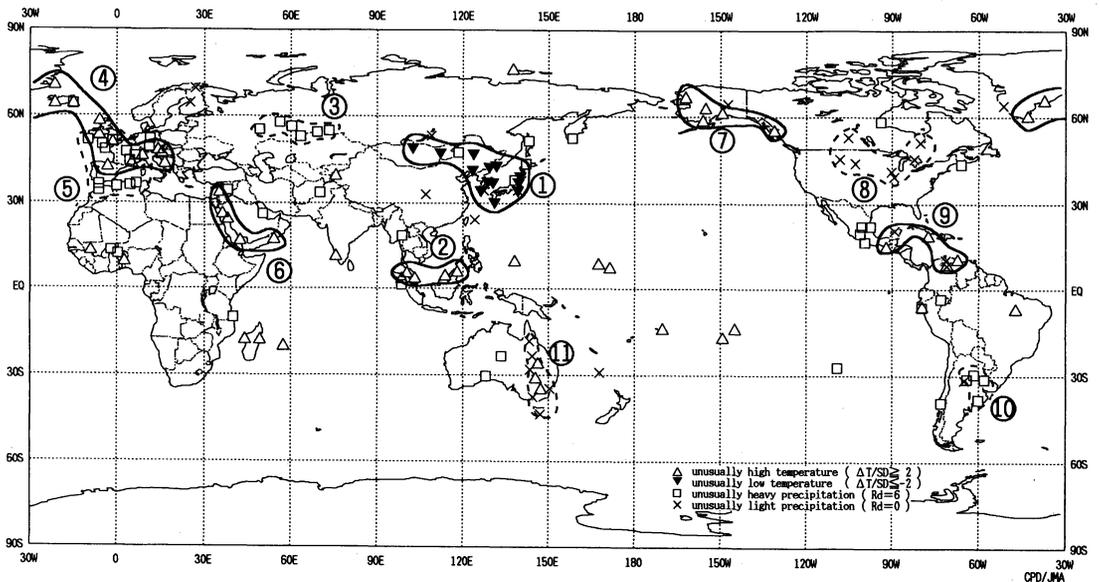
等値線間隔は20 m/s. 陰影部は40 m/s以上. 太実線で囲まれた領域は平年の40 m/s以上の領域を示す. 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



2002年11月の月平均 850 hPa 高度および風ベクトル 等値線間隔は 20 m (1400 m までは 100 m)



2002年11月の月平均 200 hPa 速度ポテンシャルおよび発散風ベクトル 等値線間隔は  $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$



2002年11月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨  
 異常高温・低温は標準偏差の2倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0. 図中の番号は本文中の番号と対応している.